

「信者に話された内容ですが『みろくの神様は大地からもう胸ぐらいのところまで出ておられる。もう少しすれば姿をすべてお出しになる。だからあなたたちは神様の心を早く理解しないといかん。それにはなんととっても愛善の心や、お土の心にならんといかん。とにかく感謝が大事だ、土からみんな恵みをもらっているじゃないか』とおっしゃいました。

私が『愛善の心、お土の心とはどういうことですか』とお尋ねしたこともあります。私は大本のおの字もわからなかった頃で、教えを伝える文献も事件のためにほとんど残っていませんでした。すると二代さまはにこにこ笑いながら教えてくださいました。

『あんた風呂へ入ったら気持ち良いやろ。気持ち良いから歌をうたう人もいるし、眼をとじてじっとしている人もいるし、十人十色いろいろな味わい方があるやろ。ただみんな気持ち良さそうにしているやろ。あれや』とおっしゃいました。あれと言われてもピンときませんでした。『温かい湯が愛善の心や。湯につかると裸の付き合いで、今まで喧嘩していた人も仲良くなるし、いろんな気持ちを持った人も同じ気持ちになる。その湯が愛善の心や。愛というのはそういうものや。親の愛もそうやで』とおっしゃいました。私は目からうろこが落ちたような気がしました。

『空気の恩、水の恩とか言われてもわからんだろう、でも風呂

に入ったらわかるだろう。あの温かみが愛や』とおっしゃったんです。